香美市立美術館
アートの窓

香美市立美術館では、動物の彫刻で、今、最も注目されている彫刻家・三沢厚彦さんの彫刻をご紹介します。三沢厚彦さんは1961年に京都府に生まれ、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻を修了後、2000年から動物をモチーフとした「アニマルズ」シリーズを発表してきました。2001年には第20回平櫛田中賞を、2005年には第15回タカシマヤ美術賞を受賞するなど、その活躍は、高く評価されています。2007年からは、平塚国際美術館をはじめ、愛知・栃木・鹿児島・福井・鳥取など、毎年、日本各地の美術館で大型の展覧会を開催してきました。

三沢厚彦さんの彫刻作品は、樟の大木から、力強いノミ跡を残して彫りだされた動物たちで、それは単純な写実表現ではなく、三沢さん自身の記憶やイメージから掘り起こされた独自の存在感が感じられます。その作品からは、動物たちの生き生きとした生命力が溢れ、実物大の大きな動物たちの迫力に圧倒されます。

ATSUHIKO MISAWA

アニマルズ2012 三沢厚彦展

8月4日（土）～10月21日（日）

▲「Animal 2011-07」2011・樟・油彩
写真：永野雅子

▲「Animal 2008-02」2008・樟・油彩
写真：内田芳孝

四国初となる今回の個展では、ペガサス・キリン・白クマ・シカ・トラ・ウサギなど、たくさんの動物たちが会場いっぱいに並びます。ロビーではモモンガが皆さんをお出迎えし、大人から子どもまで、幅広い年齢層の方々に楽しんでいただける展覧会となっています。

また、美術館のアトリエでは、三沢さんのアトリエ制作の様子がうかがえるような空間を再現しています。

夏の暑い時期、三沢さんの造り出す動物たちに、夏を乗り切るエネルギーを感じていただけるのではないでしょうか。

皆さまのご来館をお待ちしております。

吉井勇記念館だより

吉井勇顕彰短歌大会 作品募集

来年3月9日（土）に開催される**第10回吉井勇顕彰短歌大会**の作品を募集します。本大会は、彼の再起の地である香北町猪野々で、勇の業績顕彰を目的として開催しています。

■作品募集要項

【作品】1人2首まで。自作・未発表のもので主題は自由。応募用紙または原稿用紙に、住所・氏名・年齢・性別・電話番号・大会当日の出欠・送迎バス利用の有無を明記してください。学生の場合は学校名、学年も記入してください。

【出詠料】千円（学生の部は無料）。定額小為替または現金書留にて、投稿時に納めてください。

【締切期限】
平成25年1月21日（月）必着

【選者】▽玉井清弘（NHK学園短歌講座「友の会」選者・「音」選者）▽楠瀬兵五郎（「高知アララギ」代表）

【賞】一般の部・学生の部（高校生以下）ごとに各賞を選出します。
吉井勇大賞（1首）・吉井勇賞（1首）・特別賞（2首）・佳作（若干首）

【入賞発表】入賞者へ2月下旬に連絡します。

【送迎バス】※要予約
香美市役所本庁舎より、市役所香北支所前経由で、送迎バスを運行します。
行き 12時発
（香北支所前12時20分）
帰り 15時40分発

【注意事項】
・受付後の作品の取替え、訂正はご遠慮ください。
・作品の返却はしません。
・投稿作品の著作権等一切の権利を主催者が有します。

【問い合わせ・申込先】
市立吉井勇記念館 吉井勇顕彰短歌大会 歌会係
〒781－4247
香美市香北町猪野々514
☎58・2220
FAX57・5995

香美市文芸
風の流れ

◆一般投稿作品◆　広報委員会 選

刈り草に落ちては白き柚の花や　楮佐古きよ
塗りし畦眺めおのれの剣が峰　福留ともり
身の丈の暮らしのありて遠花火　山﨑 貴子
露草の青より勝る青はなし　森本 幸美
紫陽花の逆様になり散歩道　山﨑 寿美
立ちあおい八合目まで咲きのぼり　坂本美智子
白鷺の白の際立つ青田中　岡田美代子
新緑のまぶしき程に峡の里　北村千鶴子
徒然にビデオで歌う梅雨の日は　有澤 春江
十薬の花惜しみつつ引きにけり　千頭 野草
静寂の刻流れゆく木下闇　森本 純喜
庭のさつき句心そそる紅の燃え　高野 和一
大皿に盛る花々や風光る　原 美由
朝まだき起きて歩かむ梅雨晴れ間　小原 景守
児の喜ぶ雲の形や梅雨晴れ間　小原 子川

◆韮 句 会◆

志士越えし土佐の間道花茨　公文 春紀
夏草や牛飼ふ家の今は無し　岡本かほる
梅雨空や厚きカーテン引き上げよ　高橋 章
尻込みをしつつ学習田植ゑの児　明石ゆきゑ
今朝のこと夕べに忘れ夏至も過ぐ　北村 幸子
杉木立梳きて流るる梅雨の霧　西川 常夫
あぢさゐや「野中のバラ」の昼チャイム　甲藤 卓雄
産土の森に音して夏至の雨　野崎 典子

干し衣に梅雨の香がありたたみけり　北村 里子
梅雨寒やひとり笑ひつテレビ見る　前田 芳子
梅天にぽっかり開いた青い空　中内ゆかり
安徳帝縁の宮居桜草　竹内 ろ草

◆かがみ野俳句会◆

真夜辞する救急病院星涼し　佐竹 洋子
窓開けば雨露ころく濃紫陽花　佐藤 幸
一人来て又一人来る梅雨の駅　利根 弘子
沙羅の花一ト日の命燃え尽す　古川 信子
論されて梅雨の止み間を帰る犬　小松 愛子
野仏の蓮座沈めて著莪の花　中澤 美晴
てのひらに軽き蝉殻重き影　山﨑 鈴子
紫陽花や今日は最後の読み聞かせ　宮地 亀好
風音も共に拾ひし蝉の殻　吉田 芳

◆かほく俳句会◆

麦喰ひの雨に借りたる男傘　乾 真紀子
遠雷や齢重ねし我が月日　奥宮 慧美
亀鳴くや吾れ晩年を楚楚と生く　黒岩 幸女
空一枚残して山田植ゑ終はる　黒岩千英子
捨つる物多し六十路の更衣　杉山 春萠
万緑の川を渡りて迫り来る　小松 隆之
門閉ざし久しき空家紫蘭咲く　小松 完
分水の掟は堅し植田守る　小松 昇
山頂の棚田棚田の水馬　野村 里史
父の日や愛妻家とて恐妻家　前田 欣一
甘藷蔓に藁敷きつめて雨を待つ　前田 秀女
梅漬けて女の齢深めゆく　間崎 和代
まくなぎや鍬の楔を打ち直す　森本 之子
青嵐鳶を浮かせてをりにけり　山﨑かずみ
祖母の眼が光つてをりぬ田植かな　山中 瑞輝
青萱に埋みうづみて刈り終へぬ　山中 晶子
夏場所や六大関に高人気　山中 明石

◆土佐山田町俳句会◆

「隅田川花火」てふ名の四葩かな　大石 邦男
風に乗るケーナの調べ夏初め　森田 菊恵
アスファルト割って大きなアマリリス　森田 貞男
おしべ取りめしべにそっと花南瓜　笹岡 英世
故郷が溺れるほどに椎の花　前田 三郎
枇杷熟れて径せまくなる十字墓　前田美智子
春星座鏡の中をさまよって　安丸 槇子
梅雨の傘高く遺影を抱く人に　橋本 昭和
繁藤忌夏手袋のひとも老ゆ　樫谷 雅道
薔薇あまた育てて午後は主婦時間　田村 一翠

今月のキラリ
白鷺の白の際立つ青田中
句を読めば一目瞭然。解釈の必要はないだろう。白と青のコントラストの効いた田園風景が目前に広がる美しい句である。

俳句・短歌の投稿方法
▼投稿方法は自由。（ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句（首）以内）
▼かい書で、住所・氏名・電話番号を必ず明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。
【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）
FAX53・5958